



合宿期間中のファミリースポーツ センターの利用について

改善に向け協議を続行する

辻 紀樹 議員

辻 本町では小中学生の夏冬休み期間中、ファミリースポーツセンターを拠点として全道各地から多くの中学校・高校等が来町し、スポーツ合宿が行われている。

このスポーツ合宿は経済効果も高く、また活性化にもつながり、本町には欠かせない事業である。その反面、地元の児童生徒や町民が、合宿期間中にスポーツセンターを利用できない状況にある。このような状況を改善するため、今日まで種々検討されてきたようであるが、その経緯と今後の対策について伺う。

町長 スポーツ合宿は町としても誘致に力を入れており、その成果は町の活性化にも大きく貢献している。

反面、事業当初から、合宿期間中は地元の児童生徒や町民がスポーツセンターを利用できないこ

とが話題となっており、移動町長室等でも意見があり、平成27年度にはその代替策として福祉センター講堂の開放をしたが、機能的な問題もあり利用者がなかった。

合宿利用施設は、スポーツセンターと長万部小学校体育館を基本に貸出しており、これを超える受け入れが必要な場合は、長万部中学校と長万部高校の部活動と同種目であれば、合同練習として体育館の利用をお願いしている。さらには、東京理科大学長万部キャンパスの体育館も使用させていた、だいている。

町民のスポーツセンター利用については、引き続き北海道教育委員会や東京理科大学のご協力をいたしながら、対応について検討していく。

辻 合宿期間中の利用団体数と人数、また経済効果は。

産業振興課長 平成26年度の延べ団体数は146団体、延べ人数4369人の宿泊。経済効果としては約2500万円弱が宿泊代金として収入され、さらには町内のコンビニや各商店にも相当の経済効果があると考える。

辻 児童生徒や町民のスポーツセンター利用は、創意工夫があれば可能ではないか。

町長 合宿事業は、これからもしっかり伸ばしていかなければならない事業である。受入団体である温泉利用組合、施設管理をする教育委員会、そして所管の産業振興課で年に数回打ち合わせをしながら解決を図り、町民や児童生徒が利用可能な時間を設定できるよう、協議を重ね改善に向け努めたい。

辻 この問題についてはもう10数年経っている。去年から色々な方策が取

られているようだが、早急に改善されるよう検討していただきたい。

町長 このあと課長会議を開催し、どういう協議を続行していくか、しっかり捉えていく。



バスケットボールの合宿